

### 【病院理念とリハビリテーション室基本方針】

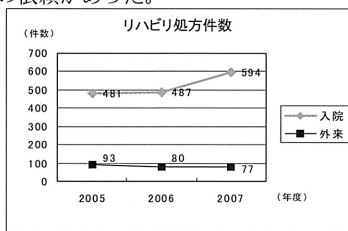
当院の理念である「医療・福祉を通じて安心して生活できる地域創りに貢献します。」を実現するために、リハ室では①早期リハビリテーションを実践する。②回復期リハビリを実践する。③在宅復帰を支援するを基本方針としている。また、2007年度より在宅復帰支援、在宅支援の一環として訪問リハビリ事業を一部開始した。

### 【リハビリテーション実施体制】

2007年度リハビリ室は、理学療法士7名（内1名は熊本病院より外向：2008年2月まで）、作業療法士7名、言語聴覚士1名の計15名体制であり、施設基準は脳血管疾患等リハビリテーションI、運動器リハビリテーションI、呼吸リハビリテーションIIの認可を得ている。

### 【リハビリテーション依頼状況】

入院依頼件数594件、外来77件（\*内訪問リハビリ3件）の計674件（107件増）の依頼があった。



### 【患者属性】

#### （入院）

#### 運動器リハビリ

TKA	下肢骨折	大腿骨頸部骨折	骨盤骨折	上肢骨折	脊椎圧迫骨折	脊椎術後	脊椎損傷	その他術後	その他	計
16	24	61	5	14	41	17	2	21	18	219

#### 脳疾患等リハビリ

脳梗塞	脳出血	くも膜下出血	脳疾患術後	その他	廃用症候群	計
88	26	6	7	10	236	373

#### 呼吸リハビリ

呼吸器疾患	計
2	2

入院患者594（男性271名・女性324名）。平均年齢77.3±12.2（中央値79.5）歳。

脳梗塞・脳出血などの脳疾患121名（2006年度114名）、大腿骨頸部骨折61名（2006年度33名）、廃用症候群は237名（2006年度212名）などが増加傾向。また、整形疾患手術後のリハビリ処方が増加している。

#### （外来）

外来患者73（男性29名・女性44名）。平均年齢59.5±15.5（中央値62）歳。

肩関節疾患	脊椎疾患	上肢骨折	下肢骨折	その他（術後）	大腿骨頸部骨折	その他
17	13	10	9	9	2	11

#### （訪問リハビリ）

依頼件数 3

### 【早期リハビリテーションの実践について】

入院からリハビリ依頼に要した期間は、5.5±10.0（中央値2）日であった。リハ依頼から介入までに要した期間は、0.5±1.1（中央値0）日であり、同日介入379名（63.4%）、翌日介入181名（30.4%）であった。

### 【回復期リハビリテーションの実践について】

2007年4月1日より当院へ入院し2008年3月31日までに退院した患者で回復期リハ病棟を利用した168を対象とし、日常生活活動能力の変化（Barthel Index；以下BI）と在宅復帰率について検討した。

#### （日常生活活動能力の変化）

入院時重症度	n	死亡	超重度					自立
			超重度	重度	中等度	軽度	自立	
超重度	75	2	10	12	15	21	15	
重度	33	0	1	3	3	17	9	
中等度	38	0	0	1	2	20	15	
軽度	21	0	0	0	0	4	17	
自立	1	0	0	0	0	0	1	

改善例	144	86%
維持例	20	12%
悪化例	4	2%

168名中144名（86%）の患者において日常生活活動能力の向上が図られている。

#### （在宅復帰率について）

入院前生活場所	n	転 帰				在宅	在宅復帰率
		死亡	施設	病院	在宅		
在 宅	158	2	12	21	123	77.8%	
施 設	8	0	7	1	0	88.0%	
医療機関	2	0	0	0	2	78.3%	

回復期リハビリ病棟の在宅復帰率（入院前の生活場所が在宅で、転帰が在宅であったもの）は、77.8%であり、施設復帰率（入院前の生活場所が施設で転帰が施設であったもの）は88%であった。両者を合わせた在宅・施設復帰率は78.3%であり全国平均を上回っている。

### 【在宅復帰支援について】

#### （家屋環境調査件数）

2007年度施行した家屋環境調査は、48件（回復期リハ病棟のみ）であった。

#### （訪問リハビリテーションの展開）

2006年度の調査により、訪問リハビリのニーズの高さが示唆されたため（当院退院患者の43%に訪問リハが必要）、2007年10月より訪問リハビリ事業を一部開始した。訪問リハビリ施行件数（単位：件）

2007年10月	11月	12月	2008年1月	2月	3月
3	10	9	5	2	12

### 【入院患者全体の日常生活活動能力の変化と在宅復帰率】

#### （日常生活活動能力の変化）

2007年4月1日より当院へ入院し2008年3月31日までに当院を退院した患者517名  
入院全体

入院時重症度	n	死亡	超重度					自立
			超重度	重度	中等度	軽度	自立	
超重度	189	25	66	28	21	32	17	
重 度	66	4	2	6	14	28	12	
中等度	128	3	5	2	10	65	43	
軽 度	114	1	2	0	1	29	81	
自 立	20	0	1	0	0	2	17	

改善例	341	66.0%
維持例	128	24.8%
悪化例	48	9.3%

### （在宅復帰率）

2007年4月1日より当院へ入院し2008年3月31日までに当院を退院した患者517名

入院前生活場所	死亡	転 帰				在宅
		中止・終了	施設	医療機関	在宅	
在 宅	471	29	5	18	71	348
施 設	37	2	0	28	5	2
医療機関	9	2	0	0	3	4

在宅復帰率	68%
施設復帰率	76%
在宅・施設復帰率	74%

### 【今後の課題】

- ・リハビリ依頼件数増加への対応
  - ・リハビリサービスの質の確保
  - ・地域に必要なリハビリ事業拡大（訪問リハ）
- ⇒ 必要人員数の確保  
職種間連携の強化  
スタッフ教育の強化
- ・当院周辺地域関連施設との連携強化（情報交換）
  - ・廃用症候群など老年期障害への対策と検討（予防的リハビリへの取り組み）